

2. 水循環計画事例の分析、整理

2.1 Plan(計画)段階における有益な情報

2.1.1 計画策定の目的

多くの水循環計画事例に共通している目標は、「別々に策定されている計画分野を水循環の視点から総合的に再整理し、行政内部の連携、さらには住民協働も含めて流域関係者が一体となった体系的な取り組みにより、水循環の健全化を図る」ことである。

また、このような体系的な取り組みにより解決を図りたいと考える主要課題、つまり策定の当面の目的とした項目は、主に「水質の保全・向上」「水辺環境の向上」「流域の貯留浸透・涵養能力の保全・回復・増進」「水の効率的利活用」「地域づくり、住民参加、連携の促進」が挙げられ、各流域の従来からの課題点や住民のニーズ等を反映している。

<解説>

(1) 水循環計画策定の目的と既存事例の傾向

水循環計画により、分野間あるいは流域の関係主体間の連携を図りながら、体系的枠組みにより解決を図りたいと考える主要課題、つまり策定の目的とした項目は、事例により異なり、アンケート結果では主に図 2-1 に示す 5 項目が挙げられました。

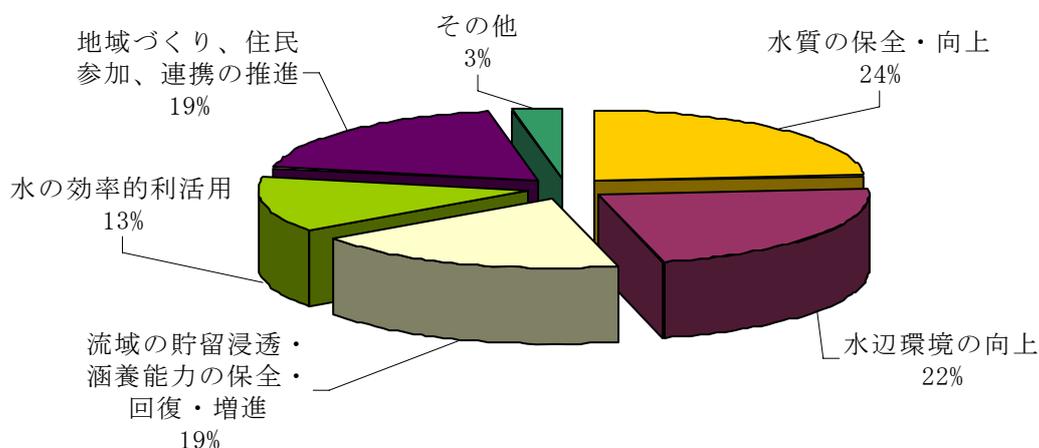


図 2-1 水循環計画策定の目的に関するアンケート結果(平成 17 年度環境省調査結果より)

(2) 既存事例の紹介

策定の目的と考える項目毎に、策定事例を示します。

1) 水質の保全・向上を主な目的とした事例

「印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画書」の場合、水道水源である湖沼としては全国水質ワースト 1 となっているため、従来より水質の改善が大きな課題となっていました。

このような背景から、印旛沼を再生するため、印旛沼に関わる全ての住民・企業・行政が役割を認識し、協働して取り組んでいく必要から、「印旛沼流域水循環健全化計画(長期

構想)」を策定することとし、また、当面出来ることを効率的かつ集中的に実行していくため「緊急行動計画(中期構想)」を策定しています。(事例の概要は 1.2 No.8 参照)

2) 水辺環境の向上を主な目的とした事例

「広瀬川創生プラン～悠久の流れ～」では、平成 13 年に市民 3,000 人を対象に実施したアンケートの結果、多くの市民が広瀬川を市のシンボルと考えているにも拘わらず、ごく一部の市民を除いて広瀬川への関心が希薄で、訪れる・川遊びをするという直接的な関わりが少ない状況が明らかとなったことから、広瀬川の新たな魅力の創出を図っていくことを目的にプランを策定しています。(事例の概要は 1.2 No.3 参照)

3) 流域の貯留浸透・涵養能力の保全・回復・増進を主な目的とした事例

「なごや水の環(わ)復活プラン」では、市の大部分で都市化が進み、地表面がアスファルトやコンクリートに覆われ、雨が地下にしみこまなくなってきたことが水収支分析から確認されたため、都市化地域を中心に雨水浸透等による水循環機能の回復を図る等、水の環復活に向けた構想を本プランに整理しています。(事例の概要は 1.2 No.15 参照)

4) 水の効率的利活用を主な目的とした事例

「福岡市水循環型都市づくり基本構想」では、過去の二度にわたる大渇水の経験から、市として継続的に節水や水の有効活用に関する検討、取り組みを行ってきた経験を活かし、さらに検討の幅を広げて、福岡市域全域の水循環に関わる現状と課題を整理し、“人と水にやさしい潤いのある都市づくり”を行うため、本構想を策定しています。(事例の概要は 1.2 No.20 参照)

5) 地域づくり、住民参加、連携の推進を主な目的とした事例

「やまぐちの豊かな流域づくり構想(樫野川モデル)」では、上流域の森林から下流域の干潟や海に至るまでの流域全体を捉えて、流域の住民、事業者、関係行政機関等が協働・連携しながら、山口方式として地域の実情に応じた特色ある流域づくりを進めるため、本構想を策定しています。(事例の概要は 1.2 No.17 参照)